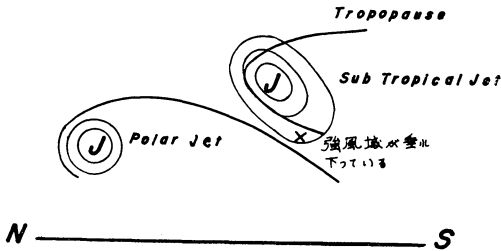


e. 状態曲線

3 高層観測点における風の変化を見ると、反時計方向つまり逆転しており、このことは寒気の移流があることを示している。

また状態曲線が 850mb 以上でやや減率が小さくなり、ここから露点線が離れて上層は非常に乾燥している。これは沈降を意味し、寒気内での空気の下降を示している。



第 8 図 鉛直断面のモデル

f. 鉛直断面図

浜松の 500mb 面の気温は -11.2 度と非常に低く、しかも風は他の 2 観測点にくらべて 30 ノットも強い。このことは第 8 図に示したように亜熱帯前線に亜熱帯 Jet が垂れ下った状態であろうと考えられる。

以上の各種資料から判断すると、鳥羽から 200km 離れた富士山を視認出来る異常透明現象が起るのは、暖候

期に於ては台風が通過後、台風の後面に寒気が侵入し、それが下降、沈降をし透明度を非常によくすることに起因している。従って寒気の侵入が比較的少ない真夏の台風よりも寒気が侵入しやすい 9 月中旬以降の台風の方が通過後透明度がよい訳で、これは今年の夏から始めた視程観測の結果と一致している。次に寒候期に於ては温帯低気圧通過後の寒気の侵入の際すなわち寒帯 Jet の南下に伴って寒気の移流、沈降が起る場合に異常透明現象がおこるものと考えられるが、これについては今後の観測結果から究明する考えである。当校にはテレタイプ回線が入っていないので寒気移流がおこると予想される前夜 12 Z の浜松の資料が手に入らないのが大きな支障となっているが、過去の経験と FAX を最大限に利用することによって異常視程を予想しその観測を明年夏まで継続するからその結果については後日報告する予定である。最後に本調査に当って種々の助言を頂いた名古屋地方気象台、安田、鈴木予報官および吉川技官に感謝の意を表する。

参考文献

- 1) Petterssen: 温度風, 天気解析と天気予報, 81~82.
- 2) 横井武長: 米子市から見た大山の鮮明度について, 天気 No. 5, 11~14.

〔書評〕

“気象災害” 島山久尚編

共同出版 KK 防災科学技術シリーズ 1

山でも、海でも、空でも、何か災難がおこると、すぐ気象災害と言うけれども、よく調べてみると純粹の気象災害、つまりこの災害の原因は気象以外の何物でもない、というケースは意外にすくない。しかし、また一方、気象が全然関係ないという災害もこれまたきわめてすくない。つまり、直接間接、何等かの形で、気象が関与しているものが大部分である。

このシリーズの第 1 巻に、“気象”をもつてきたのはそういう意味で、いわば、どの災害にも共通する基礎編ということであろうか。

この本の中では災害における気象の役割りを、

- (1) 直接、気象そのものが破壊力をふるうもの、た

とえば台風のようなもの。

- (2) 気象のもたらす第 2 次的現象が破壊力をふるうもの、たとえば水害のようなもの。

- (3) 災害をあたえる破壊力がほかにあつて、その破壊力の集中や拡大に対して、気象が関与するもの、たとえば火災のようなもの。

の 3 種に分類し、章を分けて、分担執筆されている。防災対策のための気象統計法や、災害地理について論じているのは一つの特色である。

防災設計の基本は結局基準設定に帰することはよく知られている通りであるが、この設定はまた、Weather minimum の決定と、再現期間の算定の二つを組合せることに帰する。そういうものを逐次改善してゆくための入門書としても、大変すぐれているように思う。

(久米庸孝)